Bの衝撃
R-18
DRRR!! fan book
Shizuo*Izaya
HK/Muchio

Bの衝撃

フッ…

あ。

あれ～もう終わってたんだぁ～…

いや～悪いね。待たせちゃって。

こんなに早く終わると思ってなくてさ。

いえ。

で、今日は何人がかり？

50人くらいです。

へぇ…今日は思ったより少ないねぇ～

——俺は

シズちゃんが大嫌いだ。

じゃ、今日はありがとうね。これ今日の分…

どーも。必要な時は又言ってくださーい。

それじゃ～！
又よろしくね☆

にこっ

でも…シズちゃんが
嫌がる顔は
この世のなによりも
大好きだ――

パタン…

は～……

だから俺はシズちゃんが何より嫌がる
卑怯な方法を使う。

でか～い！
重～い…！

ずるずる

シズちゃんの嫌がる顔見る為なら
手段なんて選ばない。

50人でダウンなんて
しょぼいよ
シズちゃん〜…

寝顔だけは
かわいいのにねぇ
ほんと…

ん〜…今日は
打ち所でも
悪かったのかな〜

あ、目覚ます前に
大人しくなる薬
打っておこうねっ☆

しゅっ

ブル
ブル

ぐぐぐぐ…

〜〜〜っ…

ぐりぐりっ

あづ…

え…なんで力
入ってんの…?
いつもはちゃっちゃとっ

う…

あっ…ヤバっ…
起きそう!

も～仕方ないなぁ…

スッ

途中で暴れられても困るから…

ね…

ん…

う……

ヘルっ…

あー…もう…俺まで舌ビリビリ～…

うぅん…

びくん

っ…！

ビクッ

びくっ

ビクッ

びくん

びくん

おお～効いてる効いてる～

ふふ…
あはは っ……！

…楽しみだなぁ…！

ビリ

ビリ

どんな顔するかなぁ？ふふっ…

シズちゃんが目覚める時が楽しみだなぁ…！

ばさっ

楽しみだなぁーー！

あぁぁ楽しみだなぁ楽しみだなぁぁーー！

たーのしーみーだなぁーーーー!!

きゃほぅぅぅぅぅぅ!!

むくっ…

グル グル グル

じっ…

はっ…

ひぃぃぃぃぃぃぃぃ

うわっ!!

ハァ

っ…!!

ちょ…ちょっと…

何で動けるのっ…!?

人間はよぉ〜…

キャーっ

ビリ

ビリ

ギギギ…

何度も同じモン飲まされりゃ耐性ってもんがつくんだよぉぉぉ…

ブッ殺すっ…！

おっと！

てゆうかさあ、な～に人間ぶっちゃってるの～？

チャキッ

やっぱいつもよりっ量多くっ…しとくべきだった

!!!

よねっ…!!

っ……!!

てめぇぇ…よくも弟に…幽に貰った服をぉぉぉぉぉ…

ブジジジジ

うるあああああ!!!

ドサッ

っ…!

わっ…!

ドバッ

し…シズちゃん…?

ぐるるるる…

じり じり…

いざやあぁぁぁ今日こそは息の根止めてやるっ……!!

……っ

……

や、やば…っ…もうこうなったら…

ぎゅぱっ

まわりくどい事してる暇ないよ、ねっ！

ぎゅぱっ

!!

ガッ

っ…!!

は…

ソワッ

――っ…!!

クソっ…
てめ…っ…

今度はっ…
何をっ……っ!

カクッ…

ビクッ

ビクッ

シズちゃんが
可愛〜くなる薬だよ…

フラ…

超強力な
媚薬……

いっ…
臨也っ……う…っ…

ビクッ

すっ

ホラ…っ…
もう……
効いてきた…っ…

っ…に…
言って…やがる…

パシッ

臨也……っ

テメー…
だって……

っ……ふ……

ビクッ

バッチリ薬…

ビクッ

効いてんじゃ…
ねーか…よっ……

ぎゅうう

っ…!!!

ん…!!!

——しくじった？…　いや——

口ん中のちょっと飲み込んじゃっただけだったのにナァ…

ぴくっ

ぴくっ

はっ…

あぅ…

でも…ある意味狙い通り…？

こうなってしまえばもうこっちのモノ…

あとは流れに身を任せてしまえばいいだけ——

ぎゅわ
ぎゅぉっ
あれぇ～…シズちゃぁん…
ぶるっ…
っ…！
まだ何にも…してないのにっ…先っぽが…グチュグチュだよ…
っ…
ふぅ…っ…
クチュクチュ
クチュッ…
こんなに早く可愛い子猫ちゃんになっちゃうなんて…
ぐぐ
くぁ…
はぁっ…
ぐぐ
ぐぐ
ぐぐ

っ…てゆーか…俺もさ…けっこう…薬効きまくりでさ…

もう…ヤバいんだよねっ…っ…

はぁっ…

ぷしゅっ

だから…もう…挿れる…からっ…ね…

っ…！おいっ…！

慣らしてないけど…っシズちゃんのヌルヌルだから…だいじょーぶだよね…っ…

クリッ…

ズプッ…

うぁっ…っぁぁっ…♡♡

はっ…ん…！

ぐちゅ

ズッ

んっ…んはっ…

ズッズッ

~~~~~!!

はっ…ぁんっ…

~~~っ…！

っ…う~~…

っ…!?

激しいっ…よっ…シズちゃんっ…!

んっ

んっ…!

ズチュッ

ズチュッ

んぁっ…

ヤベ…も…イく…

ビクッ

っあ!

ビクッ

~~くっ…あ…

ドピュッ

ドピュッ

ちょっとぉ…早いよ~…シズちゃぁん…

ズルッ…

はーはー…

まさか自分だけ先にイって終わりじゃないよねぇぇぇ?なっさけないなぁ~…

…るせ…ブッ…殺…す…

これで終わりとかほんとありえないよねぇ～

男として恥ずかしくないのぉ～？

カッコワルイよぉ～シズちゃぁん～

ぅりぅりぅり

つるせえええええ黙れノミ蟲いいいい！

ドカーン

あはっ☆そうそうその調子その調子い！

キャっキャっ

んっ……！

ぐっ…

ズズズッ…

ああああっ…

ガスガス

ズっズっ

ズコズコ

ガスガスガスガス

ぁぁぁぁっ…

オラッ…これでっ…満足かよっ……！

ぼぴーん

んん…っ…

あっ…ん…そこっ…きもち…っ…

はぁ

はぁ

ぐぃ

ぐぃ

んぅっ…ふぁ…んっ

ぶるっ

ぶるっ

ぶるっ

ぶるっ

ふあああぁぁっ…

ガク

ガク

ガク

んっ…

ったっ…いよ…シズちゃっ…あ…っ!

しっ…シズちゃぁん…

はっ…激しすぎるっ…からっ…

ガリ

ガリ

ガリ

ガリ

バカっ…壊れちゃうよ…

ガク

ガク

ガク

ふ…

ふぅっ…

はっ…
はぁ…んっ
痛いのは、嫌いじゃないケド……
気持ちいいよぉ…シズちゃ…ん…
ジュポッ
ジュポッ
もう…っ…イっちゃう…かもっ…
グチュ
グチュ
んっ…シズちゃんも…げん…かい…？
また…っ出しちゃう…？
っせ…よ…っ
いい…よっ…またっ…いっぱい出して…っ…！
おっ…ぃ…
っ～～…！
んっ…一緒に天国…イこぉ…？
っあ……！
ビク
ビク
ビクッ
ビクッ
あ、あ、あ～…！
ドプッ
ドプッ
はあっ…
はっ…
ドク
ドク…
ポタ
ポタ

ガンッ
ガンッ
ガンッ
ガンッ
シズちゃんてさあ～…
いでで…
ほんっと加減てモノを知らないよねぇ～いつも一人善がりで気を使うとかしないしい～乱暴だしい～喧嘩の最中じゃあるまいし。あ、シズちゃんにとっては俺とするのなんて喧嘩みたいなもんかぁ～あはっ！本当やんなっちゃうなあ～！
ピタッ
はっ
ギギギギ
ギギギ
アー

クソノミ蟲っ…！
二度と口聞けねぇ
ようにっ……

っ…く……

っ……！

どーしたの…？

殴ればぁ…？

…帰る。

パッ

ちょっ…
待ってシズちゃ…
……っ…!!

ガタガタッ

ベたんっ

ああ〜〜!
チクショッ…!

っ!!

ガッ

おっ

ばレ!

くそウゼェっ…!

くそっくそっ
くそっくそっくそっ…

ズンズンズン

ほーんと!!

ぷーン

怒ってんだか
照れてんだか…

ああ〜ほんっと
シズちゃんは
か〜わいい〜
なあ〜〜♥♥♥

ピタッ

きゃはっ♥

こンの腐れノミ蟲野郎〜!
可愛いとか言ってんじゃ
ねえええええ!!

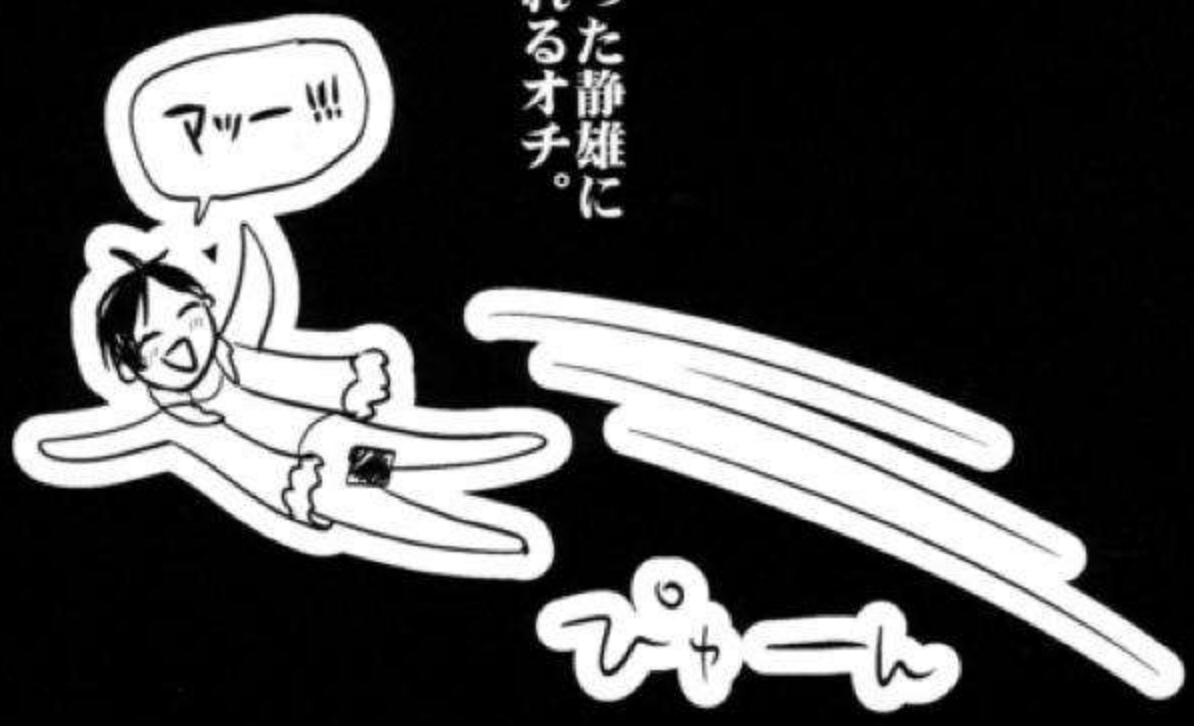
いたっ
シズちゃん
痛いよっ!

殺す!
今日こそ殺す!

これだから

シズちゃんからかうのって
やめられないよ…ネ。

結局怒り狂った静雄に
ぶん投げられるオチ。



Bの衝撃

「シーズーちゃん」
夜になってもネオンが消えることの無い街、池袋。人と喧騒が溢れるその空間に、不釣り合いな陽気な声が響き渡る。次の瞬間、まるで爆発でもしたかのような轟音が周囲の人間を驚かせた。
「あぶなっ。やだなーシズちゃん、危ないじゃない」
「なんでここにいる」
気づけば二人の周囲に人の姿は無かった。誰もが彼らには関わってはいけないのだと知っている。この街で二人はあまりにも有名だった。
「ちょっとね。それよりシズちゃんこそ、何してんの？」
自分の脇に転がった自動販売機を軽く蹴りながら陽気な男が問い掛ける。
それに答える義理などないと判断したのか、バーテン服を着た男は再び周囲を見渡して投げ飛ばせるものがないかと探っているようだ。
その隙を見計らって陽気な男――折原臨也が狭い路地へと入り込む。しかし、二人の距離がそれ以上に離れることはない。それは直ぐさまシズちゃんと呼ばれていた男、平和島静雄が追って来たからだった。
「ストップ！」
「この街には来るなっつったよな？」
「だからストップだって、シズちゃん」
「その呼び方やめろ」
「いいじゃない。俺だけの呼び名」
一気に距離を詰めた静雄が臨也の胸倉を掴み上げる。今日こそは、と思い続けてもうどれくらいの月日が経っただろうか。
臨也の背中を壁に押しつけ、視線を合わせる。
人を挑発するような目、ゆるりと弧を描いた口元、余裕のある態度がまた静雄の怒りを倍増させた。
胸倉を掴んだ手をそのまま上へ移動させ、体重をかけるようにして力を込めたら彼の首はいとも簡単に折れてしまうだろうか。それとも、またいつものようにひらりと躱されてしまうのだろうか。
「シズちゃん、焦ってる？」
「何？」
「また、逃げられるんじゃないかって焦ってるでしょ？」
今日の彼は静雄の知っている臨也とは違うような気がしていた。
「今日は逃げないよ」
「……」
臨也の意図が読めず、静雄は力を中途半端に込めたままの体勢で固まってしまった。こんな彼を、自分は知らない。

「今日は……」
先ほどまで緩く弧を描くだけだった臨也の唇が歪む。そして次の瞬間、静雄は自分の唇に何か温かいものが触れるのを感じた。
それが臨也の唇だと判断するまではほんの一瞬。すぐさまその細い体を投げ飛ばす――否、投げ飛ばそうとした。
「嫌がらせ、だよ」
僅かな時間怯んだ静雄の手から臨也はするりと抜け出していた。
どうして彼が急にそんなことを言い始めたのかはわからない。けれど、静雄にとって理由などどうでもよかった。
今、自分が、嫌がらせを受けた。
体中の血が沸騰するような怒りを覚える。
静雄は再び距離を詰めると先ほどよりも加減のない力で臨也を地面に引き摺り倒した。
「ッ……随分とお怒りだね、シズちゃん……」
「黙れ」
体格では自分の方が勝っている。一度押さえ込めばこっちのものだと思っていた。
彼が自分に嫌がらせをしにきたというのならば、それ以上のことをしてやればいい。
争い事は好きじゃないけれど、それとこれとは別問題だ。
そもそも逃げようと思えば先ほどだって充分逃げられるだけの時間があった筈だ、臨也にとっては。
そうしなかったのは何故――。
考えれば考える程、静雄は混乱していった。
「シズちゃん、重いってば」
「黙れっつってんだろ」
こんな状況になっても、こんな体勢になっても未だ人のことをバカにすることをやめない臨也の言葉を封じたくて静雄は自らの唇を重ねた。
触れるだけだなんて生易しいものではない、噛みつくような激しい口づけ。
「んっ……」
流石の臨也もそこまでは予想していなかったのか、一瞬目が見開かれる。
サングラス越しとはいえ、その表情が見られただけで静雄は興奮していた。ほんの一瞬だけでもいい、臨也が表情を変えたのだ。
顎を押さえ込み、その手で喉も圧迫する。これできっと彼も動くことが出来ない。
静雄は一旦顔を上げ、舌で自らの唇を拭った。
自分では抑えきれない程の衝動が駆け巡る。
「声もだせねえだろ」
形勢逆転のように見えた。
顔を近づけ、耳元で低く囁けばくすぐったさにぴくりと

臨也の体が反応する。
このまま。
喉に当てた手にこのまま力を入れれば彼を殺すことが出来るかもしれない。先刻から自分の中で渦巻いているのは破壊してしまいたい衝動だった。
抑えることが出来るとも思えない。
「今度は俺がしてやるよ、イーザーヤくん？」
苦しそうに歪む臨也の顔にどうしようもない程の悦楽を感じる。触れた箇所から伝わる彼の体温も、荒い息も、全てが静雄の興奮材料となった。
「嫌がらせ、だっけ？　イザヤくん？」
このまま自らの手で全てを暴いてしまいたい。
暴いて、壊して、そのまま――。
静雄が更に力を込めようとしたその時。
臨也の唇が、再び綺麗な弧を描いた。

fin…

Bの衝撃

こんにちは、はじめまして、むち雉と申します。
ここまでお付き合いいただいてありがとうございます。
はじめてのDRRR!!本でシズイザ本です。
精神的イザシズ、肉体的シズイザな感じ…なのでしょうか…
自分的に百合ップルなのでにゃんにゃんあへあへって感じになりました。
どきどき喧嘩みたいな…いや喧嘩基本なのか…?
仲良く喧嘩しな♪な2人がかわいくて仕方ないです^^
つかずはなれずな感じが好きです^^
お互い意識しすぎな所がほんとかわいい!はあかわいい。
かわいいしか出てこない:::だってかわいいから仕方ない。

タイトルのBは一応ブラックのBなんですが(伊達ワル的な感じで)
ビッチのBでもいいです。イザビッチ。襲い受臨也くんをイメージして。
…どうでもいいですね。ええ。

今回ゲストして下さったChikoさん、お手伝いして下さったとよちゃん
本当にありがとう!!!ラブ!!!愛してる!!

ではではまた機会があればお会いしましょう〜!

むち雉

お友達のいない臨也くんのお友達は大人のおもちゃだといいなとか…
一人遊びが上手そうです.
一人遊びを波江に見られたらいいと思う。
そして冷ややかな目で見られたらいいと思う。
そしてハアハアしたらいいと思う。
なんという変態。好き。

JKの衝撃

2010/05/03
HK
むち雄
kt0000503@yahoo.co.jp
http://hk3456.blog47.fc2.com/
印刷 金沢印刷様

JBの衝撃